

JA全農 WEEKLY

2面

たまねぎ広域集出荷施設稼働

(新潟県本部)

2面

野菜集出荷施設「会津野菜館」が竣工しんこう（福島県本部）



オリジナルエコバッグ作りに携わった農業資材専門店・JAグリーンかながわの女性スタッフ(上)とデザインの基になった彫刻画(8面)



稼働した新潟県本部たまねぎ広域集出荷施設構内と選別ライン(2面)

3 AgVenture Lab 1周年記念イベント開催
(経営企画部)

ファーマーズ型店舗を次々出店
(くらし支援事業部)

4 観光需要減少に対応、農協観光社員が
「とれたて元気市」で勤務(広島県本部)

岡山県知事に岡山県産農畜産物PRを
依頼(岡山県本部)

5 農業労働力支援の取り組み拡大へ
(耕種総合対策部)

6 With/Afterコロナ時代の食と農
(全農チーフオフィサー 戸井和久氏・最終回)

7 JAズームイン(群馬:JA碓氷安中)

8 JAグリーンかながわ
オリジナルエコバッグ発売(神奈川県本部)

ラジオ番組「JA全農 COUNTDOWN
JAPAN」プレゼント(広報・調査部)

JAタウンショップ紹介
博多うまかショップ(JA全農ふくれん)

Web版JA全農ウィークリーは
こちらから



<https://www.zennoh-weekly.jp/>

Web
限定

医療従事者へ山梨県産農産物を贈呈
(山梨県本部)

日本代表選手を食でサポート!

2019年振り返りレポ⑧

卓球・T2シンガポール(広報・調査部)



『JA全農ウィークリー』の
ツイッターはこちら



News!



野菜集出荷施設「会津野菜館」竣工式を開催

全国初となるJAと全農が共同で設置・運営

福島県本部

福島県本部がJA会津よつばと共同出資・運営する広域野菜集出荷施設「会津野菜館」が会津若松市内に完成し、6月21日に現地で竣工式を開きました。

JAと全農の共同での取り組みは全国初となる事例で、竣工式には生産者をはじめ、JA、全農、施工業者ら多くの関係者が出席しました。JA会津よつばの長谷川正市組合長から「JA会津よつば・JA全農福島が一体となり、生産体制を確立し、会津野菜館が生産

基盤の核となり得るよう精いっぱい努力する」、山崎周二代表理事理事長からは「機械選果により生産者の作業負担軽減に努め、生産意欲向上で、この会津の取り組みを園芸事業の優良モデルとして全国へ展開していく」と、新施設稼働に向けた展望が示されました。

野菜集出荷施設「会津野菜館」の竣工を祝い関係者がテープカット



祝 会津野菜館 建築工事

完成した「会津野菜館」



会津野菜館は6月26日から本格稼働し、会津全域から集荷された「キュウリ・アスパラガス・チェリートマト」の3品目の選果・選別作業を行い、県内外へ会津産の新鮮な野菜を出荷します。

News!



たまねぎ広域集出荷施設稼働

さらなる生産拡大を目指す

新潟県本部

新潟県本部は、新潟市にある下越配送センター内に「たまねぎ広域集出荷施設」を新設し、6月から稼働しています。

これまで稲作と作業競合せず、需要が安定しているたまねぎの生産拡大をJAとともに推進してきましたが、一方で収穫後の乾燥・調製・選別にかかる労力が、生産者個々の規模拡大の障壁となっていました。

この施設では、複数JAの共同利用を前提に、収穫後のたまねぎをJAから鉄コンテナで集荷し、乾燥↓調製(根葉切り)↓選別↓箱詰め・計量↓出荷販売を一元的に行い、1日当たり最大で40〜50ト処理することが可能です。販売は県内外の卸売市場を中心に、加工業務向けの直接販売も手掛け、生産者手取りの確保を図ります。

新潟県本部の園芸事業では初めての集出荷施設運営となります。今後、さらなる園芸生産拡大につながるよう、万全を期して取り組みを進めていきます。

稼働したたまねぎ広域集出荷施設内



たまねぎの選別作業





AgVenture Lab 1周年記念イベントを開催

オンラインで多くの方からショートメッセージも

経営企画部

2019年5月の開設から1周年を迎えた一般社団法人AgVenture Lab (アグベンチャーラボ、以下「ラボ」)は、6月25日、1周年記念イベントをオンラインで開きました。

イベントでは関係者の登壇に加え、これまでJAGグループやラボに関わった多数の方々からショートメッセージもいただきました。

ラボの荻野浩輝代表理事、理事長が1年間の活動報告とともに、「開設から(今年)2月まででおよそ1万人の来場がありました。新型コロナウイルス感染症により制約のかかる生活の中で、家族で食卓を囲むことがい

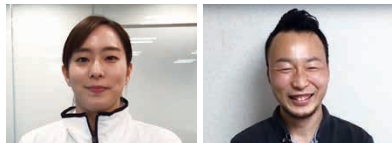
に幸せなことであるかを改めて実感し、ラボの取り組みを通じて次世代に残る食卓を残していきたい」と述べました。

また、ラボのミッションである「食と農とくらしにかかわる社会課題を解決する」ため、国内にある地方のラボや大学などの連携強化により、農業や地域の困り事をすぐに察知できる体制を構築すること、社会課題を解決する志を持つ



謝意を述べる荻野代表理事

イベントの視聴はこちら



ショートメッセージをいただいた石川佳純選手と株みらいスクールの菅野高広社長

た人の背中を後押しすること、また全国農協青年組織協議会(JA全青協)と連携し、農業者が集まりやすく、声を届けやすい環境を整えることで農業者のニーズをスタートアップ企業に対して伝えていく役割を担っていきたくないと伝えました。



ファーマーズ型店舗を次々出店

6月中旬に長野、群馬、佐賀にオープン

くらし支援事業部

くらし支援事業部は、組合員の「くらし支援」と「国産農産物の販売拠点」として、農産物直売所とJAグループのスーパーマーケットであるAコープ店舗を一体化した「ファーマーズ型店舗」の出店を進めています。6月中旬に、全国で3店舗が新規オープンしました。

まず、6月11日に長野県大町市にオープンした「Aコープファーマーズおおまち店」は長野県産を大々的に打ち出しています。地元の農産物を使用したインスタア加工のカットサラダやフルーツも並びます。同月12日には群馬県高崎市に「JAファーマーズ高崎吉井店」が

ズAコープ街かど畑」がオープンしました。同店が入居する商業施設「コムボックス佐賀駅前」には全農直営の「みのりカフェ季節」も出店しています。

お目見え。「上州和牛」「上州麦豚」「赤城鶏」など群馬県産のお肉を豊富に展開しています。そして20日、JR佐賀駅前に「JAファーマー

各店舗とも、地域の魅力が詰まったお店となっています。お近くにお越しの際はぜひご利用ください。また年内には、さらに1店舗の新規オープンを予定しており、全国で29店舗のファーマーズ型店舗を展開します。



Aコープファーマーズおおまち店(長野県大町市)



JAファーマーズ高崎吉井店(群馬県高崎市)



JAファーマーズAコープ街かど畑の店内(佐賀県佐賀市)

News!



農協観光社員が「とれたて元気市」で“副業”勤務

観光需要減少に対応、広がる支え合いの輪

広島県本部

株式会社農協観光広島支店の社員が6月上旬から、2カ月間の期間限定で広島県本部の直売所「とれたて元気市 広島店」で勤務しています。

新型コロナウイルス感染症拡大で旅行などの需要が落ち込み、観光業は営業活動の縮小を強いられています。(株)農協観光は希望する社員に副業を認め、広島県内

では、人数や期間の条件が合った「とれたて元気市」などで働いています。同広島支店の藤代浩也支店長は「社員も不安な状況ではあるが、少しでもお役に立てれば」と話します。



バックヤードでアスパラガスの品出しをする農協観光広島支店の藤代支店長

また、「とれたて元気市」の店舗運営業務を受託する(株)全農広島直販の田城敏社長は、「巣ごもり消費の拡大による来店客増加と、新型コロナウイルス感染症対策の徹底により従業員に大きな負担がかかっている」と現状を語ります。今後ともJAグループとしてお互いが支え合う活動を続けていきます。

News!



岡山県知事に岡山県産農畜産物PRを依頼

医療関係者へはブドウ贈呈へ

岡山県本部

岡山県本部やJA岡山中央会などで構成する「岡山県うまいくだものづくり推進本部」の伍賀弘本部長(岡山県本部長)は6月12日、岡山県知事を表敬訪問し、岡山県産農畜産物のPRを依頼しました。

新型コロナウイルス感染症拡大に伴うイベントや外出の自粛などにより、県産高級果物の販売が苦戦しており、例年行っていた知事によるトップセールスなどのPRも実施できない状況となっています。



伊原木知事(前列右から2人目)に岡山県産農畜産物PRを依頼し、医療関係者に送るブドウの目録を贈った伍賀本部長(同3人目)

ブドウの本格出荷の時期を迎えるにあたり、伍賀本部長は伊原木隆太郎知事に、「岡山県のブドウの匠たち(たくみ)が丹精込めて栽培したマスカットを、県民をはじめ、国内外の多くの方に食べて、買っていただけるよう、知事から、さらなる積極的なPR、応援をしていただきたい」と依頼しました。

また、新型コロナウイルス感染症対策のために日々最前線で尽力いただいている医療関係者に対し、感謝の気持ちを込めて、マスカット共進会(7月、9月、10月の3回)に出品されたブドウを贈呈することとし、県知事に目録を渡しました。医療関係者へのブドウの贈呈は共進会終了後(初回は7月31日)に、知事・生産者からのメッセージを同封して送付する予定です。

令和2年度 第1回九州ブロック労働力支援協議会

農業労働力支援の取り組み拡大へ

全農は6月19日、九州ブロック労働力支援協議会を福岡市で開きました。取り組みの拡大に向けて、各県域の状況や課題を共有。協議会事務局からは、労働力需要の実態把握や異業種連携によるパートナー企業の新規開拓の取り組みを提案しました。【耕種総合対策部】

全農は農業生産現場の労働力支援に向け、全国各ブロックで関係組織と連携して協議会を設立する方針で、今年1月に全国に先駆けて九州ブロックで協議会を設立しました。メンバーは、全農、九州・沖縄の県経済連、県農協、県中央会、農林中央金庫福岡支店、農作業を受託する(株)菜果野アグリとなっています。

今回の協議会では、内閣府、九州農政局からの情勢報告の後、各県域の今年度の活動実施策や目標、課題を共有。農作業受委託の拡大、Web求人サイトでのマッチングによる人材確保、農福連携の展開や外国人技能実習生の受け入れなど、地域の状況に応じた取り組みを進めていき

各県域の目標、課題を共有

協議会事務局からは、①各県域の労働力需要の実態把握と、②農作業を受託するパートナー企業の新規開拓の部会活動を提案しました。今後、具体的な活動に入り、九州での農業労働力支援の取り組みをさらに加速したいと考えています。

農業のファンづくりを期待

協議会のオブザーバーである、A

ワーク創造館(大阪地域職業訓練センター)の西岡正次就労支援室長は、「菜果野アグリを通じて農作業に従事した人のうち、約1割が農業のファンとして同社の社員になったり就農したりしている。いかに農業に興味を持つてもらおうかがポイント」と登録者数を増やすことの重要性を強調しました。

また特定非営利活動法人(NPO法人)おいた子ども支援ネットの矢野茂生専務は、「ひきこもりの人の社会参画など農業労働力支援が持つ福祉面での意義が大きい」と、取り組み拡大への期待が寄せられました。

全農は7月8日に中国四国ブロック労働力支援協議会を開催し、労働力支援の取り組みを広げていきます。



各県域の取り組みや目標などを共有した九州ブロック労働力支援協議会の会合

With/Afterコロナ時代の食と農

コロナ禍は食農業界にも大きな影響を与えました。今後の農産物流通はどのように変化するか？ 識者・関係者に聞きます。

【広報・調査部】

流通現場から見る今後の農畜産物流通

全農チーフオフィサー 戸井 和久氏

③ 全農・JAグループとしての将来像

【全3回 最終回】



これまで、業態の変化やどのような視点でサービスや商品を開発するかを見てきましたが、最終的に全農およびJAグループとしてどう取り組んでいけば良いか、全農のチーフオフィサーとしての考えを述べます。

自分たちのサプライチェーンを見直す

一つは業態のボーダレス化が進む中で、自分たちの今までの常識的なサプライチェーンを見直すということです。ラストワンマイルのためのネット機能や個配物流機能を強化し、そのための冷凍や加工機能も含めたストックポイントとなる施設の整備を戦略的に進めることが求められます。これは既存の縦割りの組織では難しく、組織に横断的な横串を刺し、外部ともチームを組みながら、若い職員のボトムアップの発想に基づいて新しいサービスや商品提案を検討していくことが重要です。私が所管する営業開発部ではそのような新たな価値を生み出すバリューチェーンを作るため、部署、県本部、JA、外部の取引先と一緒にプロジェクト形式で企画提案や商品開発を行っています。ここでのポイントは失敗を恐れず、まず実行してみることです。

生活者にどのように近づいていくか

もう一つは生活者により近づいていく事です。前回、生活者データはまだ未知であると書きましたが、それらを分析していくための機能は必要です。例えばコロナでデリバリーが一般的になってきましたが、デリバリーされた商品がどのように食べられているか、食べる瞬間に本当においしい状態か、まだまだ商品開発やブランディングの余地があると思います。直近では行動研究のアプローチからの商品開発が見られますが、同様の研究機能をJAグループとして持っても良いのではないのでしょうか。

本当のプロダクトアウトの商品開発

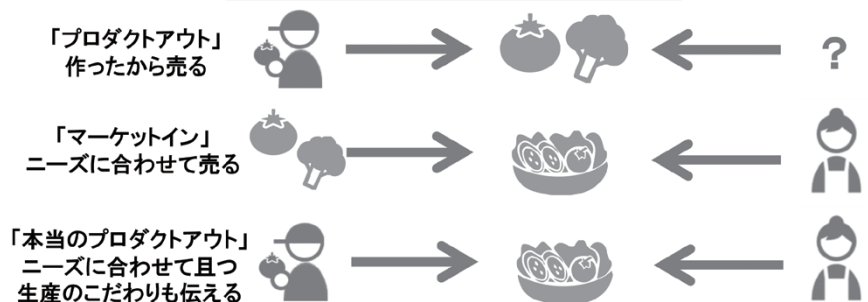
前回、ストーリーが今以上に求められていくと書きましたが、JAグループ

は生産側のストーリーをどこよりも持っている組織です。普段、マーケットインの発想をと言っていますが、生活者のニーズが見えた状態でそれに合わせたストーリーを提供する、これが本当のプロダクトアウトであり、単なるマーケットインよりも負けない差別化商品だと思います。

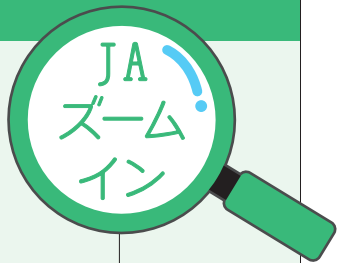
食のトップブランドになる

今回のコロナでの買い占めや物流の乱れは、私たちの普段食べている食料が生産現場の努力によって支えられていることを再認識させてくれるきっかけになったと思います。それと同時に、それが崩れることへの不安は消費者心理の中に大きく残るのではないかと思います。これに応える形で日本の農畜産物の価値を最大限提供することが、全農・JAグループだからこそ食のトップブランドだと思います。

本当のプロダクトアウトとは



次号では、グローバル視点で見る今後の農畜産物流通について、農林中金総合研究所取締役基礎研究部長・平澤明彦氏にお聞きします。



新たなブランドナス「トロまる」

ベテラン農家が生産に意欲

J A 碓氷安中は、農業者の所得増大と高齢農家の負担軽減などの取り組みとして、6年ほど前から「しろなす」の生産を始めました。

仲卸業者からの提案契機に 2016年から本格的に栽培

「しろなす」の栽培を始めるきっかけとなったのは、6年ほど前、J A 販売担当者が卸売市場で実施した情

報交換会での仲卸業者からの作付け提案でした。

「しろなす」は生育期間が比較的長く、傷つきやすいため、細やかな技術が求められる半面、紫ナスと比較して剪定作業の必要がほとんどありません。そこで、技術力はあるものの高齢化する管内のベテラン農家に適していると考え、2015年に試験栽培を、翌年から

本格的に栽培を始めました。

出荷規格を簡素化 ブランド化にも取り組む

出荷規格は1本250g、300gをバラ詰めと簡素化し、高齢農家の荷造り負担の軽減を図りました。また、ナスの品種は「しろなす」だけでも多岐に及ぶため、差別化を図るべく生産者と話し合い、加熱調理をするのとトロっとした食感になることから「トロまる」と名付け、ブランド化に取り組んでいます。

出荷のピークは8月中旬から9月末。昨年は首都圏量販店の青果売り場で食べ比べ宣伝会を実施したほか、「しろなすと鶏肉のしょう



「しろなす」の目ぞろえをする生産者

J A 碓氷安中 (群馬県)



概要	令和2年2月29日現在
正組合員数	2392人
准組合員数	2655人
職員数	87人
販売品取扱高	19億4千万円
購買品取扱高	11億8千万円
貯金残高	392億4千万円
長期共済保有高	111億8千万円
主な農産物	夏秋なす、上州ねぎ、下仁田ねぎ、コンニャク



しろなすと鶏肉の生姜焼き

材料 (3~4人分)

- しろなす 2本
- 鶏もも肉 300g
- しょうが 20g
- 塩・こしょう 各少々
- サラダ油 大さじ4
- しょうゆ 大さじ1
- みりん 大さじ1
- 砂糖 大さじ1
- 片栗粉 小さじ1
- 青ねぎ 適量

作り方

- 1 なすはへたを取って縦半分(1)に切り、皮に5mmおきに切り目を入れ、さらに1cm幅に切り、水にさらす。
- 2 しょうがはみじん切、鶏肉はひと口大に切る。③をザルに上げ、ペーパータオルで水気をふく。
- 3 フライパンにサラダ油をひいて熱し、なすを入れて強火で炒める。こんがりとし焦げ目が付いたらいったん取り出しておく。
- 4 同じフライパンに鶏肉としょうがを入れ、軽く焼く。しょうがを強火で炒める。水50ml(分量外)を入れてフタをして煮し焼きにする。
- 5 水分がほぼなくなったら④のなすを戻し入れ、混ぜ合わせた調味料を一気に入れる。
- 6 なすがぐずれないようにフリフリと炒める。全歯にたれがからまり、ツヤが出ればできあがり。器に盛り、小口切りにした青ねぎを散らす。

「しろなすと鶏肉のしょうが焼き」のレシピカードを配布し食べ方もPR

が焼き」などのレシピカードを配布し、積極的にPRしました。なじみの薄かった「トロまる」が消費者や実需者に徐々に受け入れられ、2019年産の販売金額は、本格的に取り組みを始めた2016年に比べ31%増の約1640万円に達しました。

この取り組みによって生産者は、「新たなブランドを担っているという自覚が芽生え、生きがいを持って農業を続けることができる」と生産意欲が向上しました。将来的には、興味を持つ県内他J Aと協力し合い、群馬県のしろなす「トロまる」としての認知度向上とさらなる販売拡大に取り組みしていきたいと考えています。

JAグリーンかながわ オリジナルエコバッグ発売

厚地で大きめサイズ
重い資材もラクラク

農業資材専門店のJAグリーンかながわは6月4日、オリジナルエコバッグを発売しました。7月から施行されたプラスチックバッグの有料義務化に合わせ、レジ袋削減への理解促進とともにエコバッグの普及を図ります。【神奈川県本部】

肥料や園芸用品など重みのある資材の持ち運びを想定して、エコバッグの素材には耐久性に優れたキャンバス生地を採用しました。肩に掛けやすい長めの持ち手付きで、側面にはJAグリーンのオリジナルキャラクターである「ジャックおじさん」と「アンおばさん」をプリントし、英字ロゴを添えてポップなデザインに仕上げています。カラーはJAマークを連想させる緑色にこだわり、ターコイズブルー(緑がかった青色)と黄

緑色の2色展開としました。

エコバッグの製作は全農耕種資材部資材店舗推進室の協力のもと、同店で働く6人の女性スタッフが試行錯誤を重ねて完成させました。サイズは縦39×横47×マチ15cmと大きめサイズで、1つ1500円で販売しています。

商品に関するお問い合わせはJAグリーンかながわ(0463-51-4361)まで。



エコバッグと製作に携わったJAグリーンかながわの女性スタッフ



デザインの基になった彫刻画(JAグリーンかながわスタッフ制作)

毎週土曜日13時~ TOKYO FM系列38局ネット

全農 ZEN-NOH

COUNTDOWN JAPAN リスナープレゼント

7月11日放送のプレゼントは、神奈川県産「ハウスみかん湘南の輝き」です。「湘南の輝き」は温暖な気候に恵まれた湘南地区(大磯町・二宮町)でハウス栽培されたみかんで、JA湘南が2005年にブランドみかんとして商標登録しました。程よい酸味と濃厚な甘味が特長で、露地みかんと比べ収穫時期が早いので、6月下旬から8月下旬までお楽しみいただけます。

また、JAタウンギフトカード4500円分を1名様にプレゼントします。【広報・調査部】



応募は番組ホームページで受付中です。



応募締め切りは7月11日の放送でランキング1位の曲が発表されるまでです。

この商品はここからご購入いただけます。

JAタウン
ショップ名

JA全農かながわ



JA全農のインターネットショッピングモール
JAタウン ショップ紹介

博多うまかショップ (JA全農ふくれん)

イチジクの生産量全国2位の福岡県で平成18年に品種登録されたイチジクの新品種「とよみつひめ」は、従来のイチジク品種にない甘さと、ジューシーな食感が特長です。平均糖度17度以上の強い甘みに、甘い香りともわいは、まさに「いちじくの女王」といえます。肉厚でとろ〜り、滑らかな食感で食物繊維たっぷりの「とよみつひめ」。ぜひご賞味ください。

※天候、生育不順等により発送が遅れる場合がございます。



ふくおか嘉穂 いちじく とよみつひめ
1.2kg.....2500円

ご注文は
こちらから



▶ JAタウンはこちらから <https://www.ja-town.com>
▶ お問い合わせは shop@ja-town1.com

休刊のお知らせ
7月13日号は休刊いたします。
次は7月20日号です。

私たち全農グループは、
生産者と消費者を 安心で結ぶ懸け橋
になります。